

第2回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：平成23年7月11日（月）

午前10時～午前12時

場所：市役所2階庁議室

1 開 会

2 あいさつ 小山副会長

3 報告事項

(1) 総合計画前期基本計画の検証(内部評価)について

(2) 市民アンケートについて

～事務局より、資料に基づき報告～

(委員)

アンケートの設問について、本審議会の委員の方々に意見を聞かないのか。

(事務局)

庁内組織で承認を受け確定することとなるが、その過程で委員の皆様に郵送してご意見を伺いたい。

(委員)

アンケートの配布について、区長さんにより、声掛けをして渡す方もいれば、郵便受けに入れておくだけの方もいるように温度差がある。また回収方法についてもいかたちで回収できるように考慮が必要だ。

(事務局)

アンケートについて、30%以上の回収率で成功という評価がある。5年前の総合計画策定の際のアンケートでは、5,000人を調査対象に区長に配布、回収までお願いし、回収率は60%に達した。

配布は区長業務だが回収は区長業務にないため、回収について声がけいただけるよう区長さんをお願いするしかないが、有効な回収方法について検討したい。

(委員)

アンケートの対象は無作為抽出とのことだが、市民全員が対象となっているのではなく、抽出されたということがわかるような文言を記載するようお願いしたい。

(事務局)

アンケートの頭書に記載する。

(委員)

アンケート調査の対象は3,000人とのことだが、その根拠は。無作為抽出とのことだが、地区や年齢等により枠を設けるようなことは考えているか。

(事務局)

調査対象人数は全体から5%の意見が指針になり得るという理論があり、そこから算出したもの。

また、無作為抽出の方法だが、地区により生活環境、人口割合も違う等市内の実情がある。地区別の年代構成に近いあたりで偏在のないように留意して抽出を行う。

4 協議事項

■総合計画基本構想の一部変更（案）について

(委員)

「基本構想の将来像に1項目加えることについて」「加えられた言葉が適切か」「基本方針に掲げられた項目が妥当か」こういった視点からの議論となるのではないか。

(委員)

最終的に、基本構想は議会にでた後に市民にお知らせを行うか。

(事務局)

概要版を配布したい。詳細については未定。

(委員)

表現、文言を中学生からお年寄り等にもわかりやすい表現にしてもらいたい。

(事務局)

将来像Ⅰ～Ⅴについては既に議決もいただき決定している内容であり変更は考えていない。今回追加したいⅥについてはわかりやすい言葉で検討したい。委員の皆様から具体的な提案をいただけるとありがたい。

(委員)

行政で作成する計画は抽象的である。踏み込んだ具体的な計画書とできないか。

(事務局)

長期間の取り組みであることから将来像、基本構想は、抽象的にならざるを得ない。ただ具体的な内容については、後期基本計画等において具体的な取り組みを委員の皆様と諮っていくこととなるのでご了解いただきたい。

(委員)

総合計画は、計画の骨格、まちづくりの憲法とでもいうようなものである基本構想と具体的な基本計画に分かれている。今日の協議事項は基本構想部分であることから抽象的なものにならざるを得ないところがあるため、ご理解いただきたい。ただ抽象的でもわかりやすさは重要。

(委員)

基本方針(案)Ⅵの2の①において復旧だけではまた災害が起こった際に同じことになってしまうので、より機能を強化するため「復興」も加えてはどうか。

また、震災時燃料の問題があった。燃料について市内の民間企業への備蓄要請だけでは足りない。大手の民間業者(卸業者)等の備蓄体制の強化が必要ではないか。市民に対しても、備蓄等の意識啓発が必要。

(委員)

防災、減災について子供のころからの意識付けが必要。

(委員)

今回の震災で、ライフラインが10日ほど止まった。車がないと何もできない。燃料不足の大変さを痛感した。地域の特性として燃料がないとどうしようもない。地域での備蓄体制が必要だ。

また、電話も通じない、車もない中で救急の連絡を取ることができないことを非常に不安に思った。救急体制について対策を講じられないか。

(委員)

広い範囲での災害の際に物資がまわってこない、そういった時にどう対応するのか、対策を講じることが大切。

(委員)

瀬峰地区は水道の復旧がかなり遅れた。水源が違うということは承知しているが、なんとかしていただきたい。

(委員)

保健医療福祉の連携体制について。PTAである方から聞いたが、4月7日の余震で子供が転倒し、出血して自家用車で栗原中央病院に搬送したら、意識がない状態で傷の手当てもされずに様子を見てくれということで家に帰された。

後日、請求があるので来てくださいますとの連絡があり行ったところ、しっかり診たという旨の文書を出された。救急病院の役割を担っている市民病院としてそのような対応はまずい。救急病院としての役割をしっかり果たすとともに体制を強化していただきたい。その後、大崎市民病院に行ったところ停電のためレントゲンはとれない状態だったが、診察、傷の手当てはしてもらったとのこと。栗原市民なのに他の市民病院で診察を受けなければならないことが悲しい。

救急病院としての体制を強化していただきたい。市民を守る病院、市民の便りになる病院としていただきたい。

(委員)

基本方針(案)VIの2の「震災をバネにした」の考え方は個人的に好きな考え方である。この「バネに」は「新たな産業」だけにかかるのか、施策①～③にかかるのか。

(事務局)

将来像に対して1～3の基本方針があり、その基本方針に対する施策として①～③があるため、「震災をバネにした」という表現は、施策①～③の3つにかかるもの。

また、復旧、復興の考え方について、被災の前と同じ状態に戻すことが復旧、被災の前以上に発展させるということが「復興」だが、将来像VIについては震災復興計画から抜粋してきていることから「復興」という考え方を取り入れた将来像である。

(委員)

将来像Ⅳ、地域の特性を活かした産業や交流が盛んなまちについて、交流館、物産館、ちょっとしたものを売っている例が多い。地域毎のブランド商品を作れないか。また、雇用の問題がある。地元企業の育成が大切。その基礎となる人材の育成、技術のレベルアップが必要だ。工業団地も準備されていない。オーダーメイドが理想だが、それを待っていたら企業はこない。一関市や登米市に流れている。

今回の災害で、沿岸部から企業進出が実際に行われている今がチャンス、工業団地の準備、企業とマッチングさせるコーディネーターが必要。

そういったことが栗原の発展には不可欠。産業を重点的に展開されたい。

(委員)

今の話は将来像Ⅵにも産業の部分があって、Ⅳにも産業の記載があるがそのもとのⅣの部分にも及ぶ話だった。

(事務局)

将来像Ⅵの地域経済の活性化の一面としての提言と受け止める。

地域経済の活性化を図ることは「バネにして」の一環として、より具体的な検討を行っていく必要があることから、後期基本計画の具体的な取り組みにおいて協議してまいりたい。

(委員)

基本構想から施策の段階まで行くと、災害を経験してこれまでよりも一段進めた施策が出てくると思われる。施策を検討する段階では「バネにして」というものが具体的に見えてくる必要がある。

(委員)

将来像Ⅵを入れることについては、この街の経験から出たものなので入れるべき。復旧・復興・防災の区分けをきっちり書いた方がいいのでは。

復旧を目指している計画もあれば、復興を考えているものもあるし、基本方針では防災について書いている。そのあたりを整理して記載すべき。

岩手・宮城内陸地震について3行、東日本大震災について3行それぞれ記載してあるが、皆さんが共有していることであれば必要ないのではないか。記憶を失わないようにという意味を込めて記載したのであれば結構だが、他の部分とバランスをみると行数が多いのではないかと感じる。

基本方針について、ライフライン、経済復興、防災、とあるが他の将来像とぶつかる。ぶつかる部分の整理をどうするか。

結局は、防災まちづくりを推進することだけ残ってそれ以外は他のところに吸収され、「震災を契機に」と他の将来像の基本方針の冒頭にいれれば済むのではないか。その辺の整理をどう行うか。

(事務局)

ご指摘のとおり。震災復興計画の事業に関しては栗駒地区・花山地区に地域を限定したものだった。ただ被害を受けた地域だけではなく市全体の問題であることから復興計画を策定した。

本日提示した事務局（案）は復興計画から抜粋したものであり、今後、施策の段階で変更の必要性が出てくれば変更を行うこととなるが、その際には、復旧・復興・防災との区分けについても事務局内、庁舎内で検討していきたい。

(委員)

インフラ整備など、他の将来像に掲載していても、災害でさらにグレードアップ、クローズアップされた部分を、どう計画に位置づけるかが大事。

将来像の分類をどうするのか、5つの将来像は平面的で動きがたりない。それに対し復興は時間軸で強く動かさなくてはならないという違いがある。それを大きな変化を早く与えるよううまく活用していく、その辺りの仕分けが必要。

(事務局)

燃料備蓄の問題、災害時の協定や通信体制断絶の場合の対処法など、前期計画策定時には見えなかったが震災を経験し、見えてきた新たな懸念、課題等に対する対処法が明確に文面に表れるよう検討していきたい。

(委員)

目に見える復旧・復興だけでなく、メンタルに関する記載が必要では。基本方針では関連の記載はあるが、基本構想でも記載できないか。

(委員)

災害を受けると心に傷を負う。次の行動に影響を及ぼす。できるだけ早く傷を治す仕組みが必要。ボランティアなどの心のケアが実施されている。

(委員)

栗原市になり、地震が2回、市全体が地震に振り回され商店街や個々の商店、企業もじり貧の状況になっている。災害だけに視線が行っているが、本来の産業の復興、企業の活性化などの視線も大切にしてもらいたい。

(委員)

地震により、出鼻をくじかれたような前期だった。しかし、これからどうしていくかが大きな課題。乗り越えないと活性化につながらない。

(委員)

花山で観光を基に商売している。工場も経営している。3年前で観光がゼロになった。商店の売り上げの8割が観光関連だった。3年経ち観光客がやっと戻り始めたところで今回の地震があり元に戻ってしまった。工場の方では今回の地震で部品が入らなくなり操業ができなく収入がゼロになった。そこで思ったことは、誘致企業があっても地元工場に仕事はこない。ISOなど技術やノウハウが足りない。

人材育成が必要。例えばISO取得の援助など。地域に根差している人の人材育成をどうするか。

(委員)

内発型の産業をどう生かすか。外からの誘致による活性化、両面のバランスが問題。災害を契機にやれることがあれば、うまく創っていくことが大事。

「市民が創る」、どうやって創っていくか。

(委員)

将来像Vに入るかもしれないが、今回の地震で、地域コミュニティの力が再確認した。小さな組織、行政に頼らない組織の育成が大切。どこかにいれて欲しい。

(委員)

災害を通じて感じたこと。これからの防災、減災は地域づくりが大切。

地域づくりの結果が大きな結果として出てくる。

社会協議会でも地区社会協議会づくりを行っている。花山地区でも岩手・宮城内陸地震の前に組織ができ災害時において活動し、復旧、復興に向け助け合いの活動が行われた。

顔が見える中での助け合いを進めている。要援護者への支援体制は小さな組織で顔が見えるから把握もできる。行政・社会協議会一体となって提携して進めていった方がよい。

震災復興「赤字の部分」を加えるということだが、震災の経験を経て入れるのだから、力強く打ち出すことが必要ではないか。

(委員)

電気がない生活の大変さを痛感した。次に燃料がなくなり、企業も動けなかった。今後はバイオマス燃料の導入も必要ではないか。太陽光、風車など自然エネルギーが大切。予備電源も大事。また、情報も大事であるが衛星携帯電話などは大変役立った。

防災のまちづくりだけでなく、特別に強いまちづくりを進めてもらいたい。

(委員)

将来像Ⅵの3の②において、自主防災組織などによる地域の防災力の強化とあるが、行政としてどういう考えに基づいて表記し、どういうことを強化したいのか。

(事務局)

市の防災に関する基本的な考え方は、自助・共助・公助の3つの区分によって市民の安心安全を守っていくというもの。自助は自分で行う、共助は地域で取り組む、この共助に対して市は支援を行っていく。将来像Ⅵの3の②については共助の考え方を示し、その中心となるのは自主防災組織であるということを表したもの。

(委員)

自助、共助については震災を経て非常に意識が高まった。公助の部分が、足りない。公助を強化していただきたい。

(事務局)

自助・共助の取り組み、地域の方々の相互の取り組みがあったため、市はライフラインの復旧等により多くの力を注ぐことができ、早く復旧することができた。公が行うべき役割について、今後の具体的な取組等の中で示していきたい。

5 その他

■今後のスケジュールについて

～事務局より、資料に基づき説明～

■次回開催日程について

以下の日程で次回開催を決定した。

日時：平成23年8月29日（月）

午前10時～

場所：栗原市役所